

竜王山頂のサクラ

1990年代、西条盆地の松が次々と枯れていった。当時の雰囲気からすれば、周辺の山々が禿げ山になってしまうのかとおびえた。松に覆われていた鏡山城の輪郭も姿を現した。しかしよく考えてみると、戦国時代、鏡山城が松に埋もれていたとは思えない。

確かに、松茸の話は聞かなくなった。だが、大きい松に隠されていた小さな松と下生えの広葉樹が、めきめきと成長してきた。春には新緑、秋には黄葉が見られるようになり（紅葉は少ない）、ごく当たり前の山になってしまった。だとすると、あの大騒ぎはなんだったの？

しかし、ここで特記しないといけないのは、春、コブシ（タムシバ？）とサクラが山々に目立ち始めたことである。

「憩いの森公園」の管理事務所前を出発して竜王山に向かうには、いくつものルートがある。どれを通っても、標識はちゃんとしているし、迷子になることはない。

山頂近く西方からゆるゆると上るアスファルトの道の下には、濃い色と淡い色のスミレが並んで咲いている。そばには地面をやたらと掘り返した跡。これって猪の仕業？夜半、暗黒の中で、猪たちが息荒くうごめく姿を想像すると、おぞましい。

やがて道下にサクラの林が現れる。もちろんこれは松枯れの結果でなく、ソメイヨシノの人工林だが。

山頂には展望台がある。西条盆地を俯瞰するには、まことに都合よい。わたしにはこの盆地が、古い古い「カルデラ」の跡に見えて仕方ない。（そうではないそうである）



火曜日とはいえ、サクラの下には一家族（2枚とも2004年4月6日撮影）

